

平成29年 3 月22日

陳情第102号

新斎場計画の見直しを求める陳情

新斎場計画の見直しを求める陳情

【陳情趣旨】

現在小田原市が進めております新斎場整備計画については、PFI方式による事業者が決定し、また建て替え工事に向けての周辺整備工事への準備も始まりつつあります。

さて、昨年7月6日に市担当部署より私達小田原市仏教会及び小田原市川東仏教会に新斎場整備計画について「お話があるのでお越しいただきたい」との連絡を頂き伺いますと、待合室がすべて2階に配置され、1階と2階の移動手段は定員11人のエレベーター2基と階段のみで行われる現在の計画とほぼ同じ概要が示され、説明がなされました。そこで私達は初めて新斎場の建設計画が進行中であることを知りました。

現在の計画がそのまま進みますと、1階と2階の移動手段であるエレベーターは（定員が15人に変更されたとはいえ）車椅子の利用者がおられればそれだけでほぼいっぱいになってしまいます。またもう一つの移動手段である階段の幅はたったの120cm。すれ違うにもあまり余裕のない階段幅で、スムーズな移動が阻害されることが懸念されます

そこで両仏教会ではエスカレーターの設定が必須であることを当計画担当部署に再三にわたり要求し、昨年10月18日には市長に要望書を提出させていただきましたが、私達の要望は受け入れられておりません。本年2月15日・19日の市民説明会でもエスカレーターの設定は無理であるとの説明がなされました。

今のままでは、進行中の高齢化による斎場の利用頻度増に対応するために、設計段階から民間に委ね、市民の利便性をあげる、という新斎場建て替えの目的とは程遠いものが出来上がってしまいます。

新斎場は老朽化した現斎場より使いやすく、静かな気持ちで死者を茶毘に附せる施設であってほしいと多くの市民が切望しております。多額の税金を使ってなぜ細かな配慮の行き届いたものが計画されないのか、納得できません。

そもそもこの計画について、私ども仏教会に最初に説明があったのは昨年7月6日。すでに計画の概略・建設業者・予算等がほぼ決まった後。また本年2月15日・19日の市民説明会も、あくまでもすでに決まっている整備計画の説明の場ではありませんでした。本来なら、施設内容の検討以前に新斎場に対する意見を募るべきであるはずですが。

この点も大変に遺憾です。

2月の市民説明会では参加者から、市民目線ではなく事業者目線での設計だとの意見も出ました。市民力を標榜する小田原市として、このように市民の意見を無視した事業の進め方は有ってはならない筈です。

以上のような理由から、新斎場の施設内容について、改めて市民目線、利用者目線での見直しを求めるべく、以下陳情いたします。

【陳情項目】

- 1、施設設計について、小田原市民、小田原市仏教会・小田原市川東仏教会等市民の意見を反映した、市民の利便性を考慮した施設への見直し作業を早急に行うこと。
- 2、特に、エスカレーター2基の設置、階段幅の拡張、エレベーター定員の増等1階・2階の移動がスムーズに行えるように、設計を改善すること。

以上

平成29年3月22日
小田原市議会議長
武松 忠 様

提出者
小田原市扇町2-16-53
小田原市仏教会
会長 中野 隆雄 印

小田原市国府津1082
小田原市川東仏教会
会長 三浦 紘善 印